

# NHKアナから入所施設職場長に転身



撮影・橋爪拓治記者

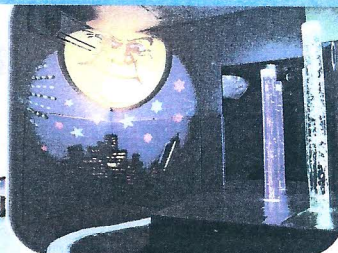
## 内多 勝康さん

6年前の出会い  
内多さんは、そのハ  
ウスマネージャー（運営  
責任者）を務めていま  
す。施設の運営や広報、  
寄付の対応など仕事は  
多岐にわたります。

施設の名は「もみじ  
の家」（東京・世田谷  
区）。人工呼吸器など  
の医療的ケアが必要な  
子（別項）とその家族  
が過ごすための施設で  
す。月1回、最長で9  
泊10日滞在できます。  
家族に代わり看護師  
が24時間、子どもたち  
のケアを担います。利  
用料は一部厚みあたり2  
千〜4千円。これま  
で、のべ1500人以上  
が利用しました。

NHKの看板アナウ  
ンサーだった内多勝康  
さん（55）。3年前の  
春に退職し、重い病氣  
を持つ子どもと家族の  
ための、短期入所施設  
の職場長に転身しまし  
た。その思いは――  
秋野幸子記者

## 重い病気の子と家族が安心できる場所



もみじの家にある「センサリールーム」。薄暗い部屋の中で、カラフルな光やウォーターベッドが楽しめます

医療的ケアの必要な子どもたち  
86年にアナウンサーとしてNHKに入局、生活ほ  
っとモニターキャスターを務めて、福祉を  
継続的に取材し  
てきた。著書に  
『医療的ケアの  
必要な子ども  
たち』（エネルギー  
工房・税別2  
200円）

医療的ケア児 人  
工呼吸器、経管栄養、医  
療的ケアが日常的に必要な子どもたちのこと。在宅で医療  
的ケアを必要とする19歳以下  
の子は1万8千人以上。10年  
前の約2倍に増えています。

内多さんが医療的ケ  
ア児と関わるようにな  
ったのは、6年前の取  
材がきっかけでした。  
病院では医師や看護  
師が行う医療的ケアを

退院後はすべて家族が  
担います。24時間つき  
つきの場合もあり、  
終わりの見えない負担  
がのしかけてきます。  
「初めてご家族の話  
を聞いたときは衝撃的  
でした。社会から孤立  
し、ケアに明け暮れる  
生活の中で「1日1回  
は死んでしまいたい  
と思います」と語ったお  
母さんの言葉は、今も  
忘れられません。30年  
間NHKにいました  
が、こんなに心が痛む  
インタビュはなかつ  
たです」

どこに住んでいても安  
心できる社会をつく  
ろ」という話に、心か  
ら共感しました。  
「最初は、ライフワ  
ークに携わる機会が減  
っていました。  
「家族を支える取り  
組みに自分の役割があ  
るなら、挑戦してみよ  
う。そう決意し、新し  
い世界へ飛び込むこと  
にしました」  
なじみのない医療的  
専門用語やパソコン作  
業に苦戦しながら、一  
から勉強して施設の運  
営を担っています。

# 社会全体で支えたい



山田美樹さん・萌々華ちゃん親子と

## 人工呼吸器使用 いい環境ありがたい

山田美樹さん、萌々華ちゃん親子

もみじの家に宿泊中だった東京都の山田萌々華（ももか）ちゃん（10）。骨がもろく骨折を繰り返す難病のため、人工呼吸器を使用しています。今回が2回目の利用です。母親の美樹さんは「保育士さんもうらっしゃる良い環境で、親子一緒に過ごせるのがありがたい」と話していました。

笑顔になる瞬間  
不安げに施設を訪れ  
る利用者も、相手をホ  
ッとさせる内多さんの  
笑顔と心地よく響く話  
し声にふれ、次第に打  
ち解けていきます。  
「最初にお茶をお出し  
するのですが、『こん  
なにゆっくり飲むのは  
久しぶりです』とおっ  
しゃる方がいます。敵  
しい日常が、その一言  
から伝わってきます」  
もみじの家では、子  
どもたちのケアをすべ  
てスタッフが任せ、家  
族は心身ともに休息す  
ることが出来ます。  
医療的ケア児は、保  
育園や学校での受け入  
れが限定的。教育を受  
ける権利が十分に守ら  
れていない現状があり  
ます。もみじの家で  
は、看護師のほかに保  
育士や介護福祉士も常  
駐し、子どもの言を

サポート。同世代の子  
と一緒に遊ぶなど、普  
段はできない体験がで  
きます。  
「これまでみな刺激を  
受けることで、表情を  
変えなかった子が笑顔  
になる瞬間があります。  
うれしすぎです」  
制度を変えたい  
もみじの家のような  
施設は、まだ他にはあ  
りません。同様の施設  
が増えない背景には、  
国からの報酬が不十分  
で、運営が赤字になる  
問題があります。  
「今の制度では、手  
厚いケアを提供するた  
めに必要な報酬を得ら  
れません。次回医療  
と障害福祉の報酬改定  
に向けて、同じ志を持  
った人とネットワー  
クを築き、共通の要望を  
出していこうと呼びか  
けています」  
アナウンサーの経験  
を生かし、全国各地の  
講演やメディアの取材  
に積極的に応じて情報  
発信力を注ぎます。  
課題が見えてきた今こ  
そ、社会を変えるチャ  
ンスだと言います。  
「適切なケアと居場  
所があれば、子どもは  
医療の常識を超えて成  
長し、社会性を夢を育  
むことができます。  
「地域で当たり前の生  
活がほしい」という思  
いをみんなが支える。  
そんな社会の実現を目  
指して、力を尽くした  
いと思えます」